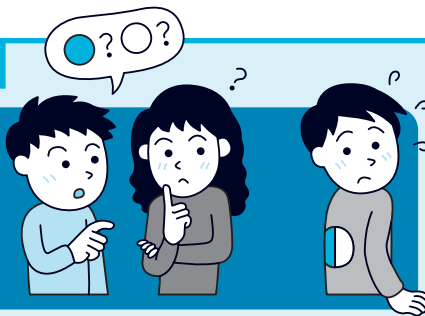


「学習への参加」から 「社会への参加」へ

多文化共生センター・岩山 仁



特定非営利活動法人である多文化共生センターは、阪神淡路大震災における被災外国人支援活動の経験をもとに、国籍や言語、文化や性などのちがいを認め、尊重しあう「多文化共生社会」を実現するため、さまざまなプロジェクトを展開している民間ボランティア団体です。

岩山仁さんは、多文化共生センターのボランティアスタッフとして、数多くの参加体験型学習を実施しています。

前回は、「シールで仲間分け」（言葉を使わずに、自分の背に貼られたシールと同じ色の人同士でグループをつくるアクティビティ）を紹介しましたが、今回まずは、前回予告した「『シールで仲間分け』の大事な続き」から…。

シールで仲間分け part 2

<用意するもの>

1回目で使った色のシールに加え、同じ仲間の色が無いシールや2色混合のシールなど

<2回目の留意点>

同じ仲間の色が無いシールや2色混合のシールなどをつかって、マイノリティ（社会的少数者）の立場や、仲間・グループの判断が難しい立場をつくりだすわけですが、アクティビティを始める前に参加者にそのことを気づかれないようにしておきます。

- ①2回目のワーク用のシールを参加者の背中に貼り、「同じルールで、もう一度やってみましょう」とだけ指示して、2回目のワークを始めます。
- ②しばらくすると、どのチームにも入れずに困ったり、2色混合のシールの人を自分たちのグループに入れるかどうかで混乱が起きたりします。
- ③ファシリテーターは、そういった参加者の具体的な反応や行動を注意して見ておき、「ふりかえり」の際に、そこから参加者の「気づき」をうまく引き出せるようにします。
- ④ひととおりグループに分かれ、動きがなくなったところで「ふりかえり」を行います。
- ⑤「ふりかえり」では、どのグループにも入れなかった人

（マイノリティの立場になった人）たちから順に、感想や意見を聞いていきます。

- ⑥マイノリティの立場になった人たちの感想に応じて、グループになった人たちにも質問をしていきます。（たとえば「2色混合とはいっても同じ色が入っているのに、なぜグループに入れてあげなかったのですか？」など）
- ⑦さらに、社会の中でも、また、自分たちの身近なところでも、このような立場に置かれた人はいないだろうか、無意識のうちに、自分たちがそのような状況やマイノリティをつくりだしてはいないだろうか、といったことを「ふりかえり」します。

このように、「ふりかえり」ではアクティビティの中での「気づき」を、実際の社会の問題への「気づき」にしていくわけです。

しかし、気づいて、学んだだけで終わってしまっただけでは、それは単なる自己満足でしかありません。気づいたことに対し、何が必要なのか、自分に何ができるのかを考え、自分自身の態度の変容や何らかの行動に移していくことが、何より大切なのです。そして、行動することによって、様々なことが見えてきます。それについてまた考え、次の行動へとつなげていく…。

つまり、そのようにして「社会参加」する中から、いろいろなことを学んでいくこと、実はそれこそが、本当の意味での「参加体験型学習」なのだと思います。

では、またいつか、今度は実際の「参加体験型学習」の場でお会いしましょう。

そうぞう

8

2003.3*No.4

人権学習シリーズ vol.1

『結婚？幸せ』

「結婚」ってなに？、と問われて皆さんはどう答えますか？この教材では、多くの人が人生の中で1度は考える「結婚」をテーマに、自分が「幸せ」になることについて考えます。

まずは、結婚そのものについていねいに学び、自分なりの考えかたを豊かに広げていくことを大切にしています。そして、結婚にあらわれる偏見や差別を考えることで、人権に関するさまざまな問題を解決する展望などを考えていきます。また、このテーマをたくさんの人と考えていくために、参加体験型学習ができる教材も盛り込みました。そして、その学習が深められるように結婚に関する資料も掲載しています。

使ってみて！
教材紹介

内
容

○この本のねらいと使い方

○教材（アクティビティ）

- ①結婚を考える
- ②結婚にかかわる偏見や差別を考える
- ③結婚差別を乗り越えるポイントを考える

○資料

- ①結婚差別問題を考える—その背景・現状・展望—
- ②差別意識・事象の現状
（同和問題の解決に向けた実態等調査など）

○相談窓口の紹介

○参考図書等

お問合せ ● 大阪府企画調整部人権室 TEL 06-6941-0351（内線2317）
（財）大阪府人権協会 人権啓発部 TEL 06-6568-2983